

組織目標評価報告書 (令和 2 年度)

17-2

部局名: 大学院医歯薬学総合研究科 歯学系

部局長名: 長塚 仁

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1)一般コースと臨床専門医コースを充実させ、融合型教育を推進することで、大学院生のニーズの多様化に対応した教育体制の整備を進める。 2)基礎系および臨床系分野が協力し、融合型の教育と研究を推進することで、教育効果の向上に努める。 3)留学生への対応やグローバル化の推進のため、e-learningによる英語授業の拡充を図る。 4)学部学生や初期研修医に対するキャリアプランの提示を含めた支援を充実させ、学生確保を推進する。 5)大学院生の国内外での研究成果報告を支援する。 6)国際交流事業を引き続き推進し、協定校等から優秀な留学生の獲得を目指す。 7)新たな学位プログラム構築に向けた準備を進める。	1,2)臨床専門医コースの大学院生が基礎系の分野でも研究できる体制を推進し、大学院生のニーズに合致した教育を行っている。臨床系では、 病院組織である診療科の再編 がなされた。 3) 研究方法論基礎、研究方法論応用の授業を、すべてe-learningにより実施した。英語授業についてもシリーズおよびe-learning化を行い留学生対応、グローバル化の推進 を行った。 4)キャリアプランの提示は、初期研修医に加え学部学生に対象を広げ、 学務委員会歯学系部会と歯学部教務委員会が連携して歯学部2、5、6年次生に対してもキャリアプランの説明会を開催し、特に大学院や専門医取得の重要性についての周知に努めた。2020年4月入学は38名であり、歯学系定員の32名を大きく上回った。 2021年度大学院生の入学者数を充足させるため、 第3回大学院入試を企画し、大学院生の獲得に努めた。 6) 学部間国際交流協定新規4件、更新2件を締結した。外国人大学院生を2020年4月入学で6名、2021年4月入学で7名獲得している。現在、歯学系の正規留学生は21名となっている。「国費留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択され、「中国駐日国費留学生予備教育事業」にも協力し、優秀な国費留学生の獲得に寄与している。本年度は国際交流は困難を極めたが、Webを活用するなど新たな方略を進める。 7)大学院改組に向けて、「学位(歯学)」取得のための学位プログラムの構築について検討し、 2つのサブプログラムからなる案を策定し準備を進めている。	
②研究領域		研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
研究大学「岡山大学」の構築を先導的に牽引するための施策を策定する。 1)歯学系内での基礎研究および臨床研究の融合や橋渡し研究の体制を確立することで、歯学系研究を推進する。 2)医療系部局(医学系・薬学系)のみでなく全学的な研究交流を推進し、新たな研究シーズの発見と応用に向けた取り組みを活性化させる。 3)協定校や海外研究機関との交流を活性化し、国際共同研究を推進する。 4)歯学部先端領域研究センターでの活動を活性化し、歯学系研究の推進を図るとともに、国内・国際的な共同研究を推進する。 5)融合研究推進が可能な歯学部棟の改修を進める。 6)歯学系構成員による科学研究費の申請率および採択率・数を維持し、さらなる向上を目指す。 7)国内・国際的な共同研究の更なる推進、受託研究、寄付金の受入増加に努める。 8)「臨床中核病院」、「橋渡し研究戦略的推進プログラム」等のプロジェクトに、歯学系の特徴を生かして協力、参画し、積極的に基礎研究および臨床研究を推進する。	ShanghaiRanking's Global Ranking(Dentistry & Oral Sciences, 2020)で、 国内4位。 1)歯学系内での基礎研究・臨床研究の融合により、橋渡し研究を加速するために、歯学系が主体として運営する「岡山歯学会」を核とした活動を開始、「 岡山歯学会オンライン討論会 」を挙げた。 2)全学的な研究交流を推進するため、 ブレインストーミングをオンライン化し、異分野交流を活性化した。次世代研究拠点・Society 5.0研究支援プログラムに基づき、2つのセミナーシリーズを主催もしくは共催し、公益法人、企業からの技術情報提供など研究交流の場を設けた。 3) 日本学術振興会国際共同研究強化(A)に歯学系教員および歯学部出身医学系教員2件の採択 を得た。採択により来年度本研究科発の国際共同研究が推進されることが確実になった。 4)歯学部先端領域研究センター主催の 研究交流セミナーを、オンラインで再開 することができた。 5)歯学部棟の5階から10階までを、地域-臨床、臨床-基礎、基礎-未開拓領域間をシームレスに交流できるようなゾーニングを基礎とした 歯学部棟の改修案が認められ、本年度から改修に着手した。 融合研究推進のため、共同利用、オーブンラボ等を1フロアに集約する計画とした。 6)歯学系構成員による科学研究費への応募を推進した結果、 科学研究費は、前年度を10件超える116件の応募を実現した。採択状況では、歯学系全体で前年度21件増を達成した。2018-2020年の歯学領域での科学研究費新規獲得件数は全国5位であった。 7)共同研究を多面的に推進した結果、本年度は 6件の共同研究、4,800千円、3件の受託研究3,300千円、111件の寄付金、39,280千円 であった。さらに 歯学部棟改修に必要な費用を補うためのファンドレイジングシステムを構築した。 8) 臨床研究・知見推進研究事業「大腸菌発現系由来rhBMP-2含有β-TCP製人工骨を用いた顎骨再生療法」令和3年度予算額91,780千円(3年間、代表:窪木拓男)が採択。「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」も採択され、歯学系のより広い貢献が可能となった。	
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1)地域、社会のニーズに応じたリカレント教育を策定し、収益事業として推進する。 2)国際交流プログラムへの参画、協力を推進する。 3)多職種医療連携をさらに促進する。医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターを主体として、医療連携推進のための人材育成、教育、研究の充実を図る。 4)地域の医療機関と連携し、大学病院のネットワーク化を推進し機能の充実を図る。 5)社会連携の推進や診療の効率化にむけた歯学部棟の改修を進める。 6)「外国人臨床修練制度」を利用して教育・研修を行い、国際的な人材を育成する。	1)地域との連携による リカレント教育を収益事業として開始 しており、 40名が受講 した。今年度は県外からの受講者が16名となり大きく増加した。 2)国際交流事業は困難を極めたが、 国際交流協定新規4件、更新2件を締結 した。プリティッシュコロロンビア大学およびオハイオ州立大学は重点校であり、更新は極めて重要である。 3)スペシャルニーズ歯科センターは、地域の 多職種医療者が参加する岡山大学摂食嚥下障害研究会食支援ネットワークをオンライン開催 、岡山県による 「在宅療養者に対する歯科医療推進事業」でのオンライン講演会、福岡県歯科医師会障害者歯科セミナーでオンライン講演会 を行った。さらに、 医療支援歯科治療部は、厚生労働省 造血幹細胞移植医療体制整備事業の一環として、造血幹細胞移植における口腔支持療法について多職種医療連携および地域医療連携に資する目的で、4回のオンライン講演会を行い、地域の医療連携推進に貢献した。 4) 口腔外科(病態系)は、「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 第12回歯科・口腔外科インテンシブコース」をオンライン開催し、地域医療機関ネットワークの推進に貢献した。 5) 歯科系診療科は、12診療科を4診療科に改編し、日本歯科専門医機構による専門性に準拠した部門を設置した。教員配置の最適化を含め、歯科系診療体制の効率化および活性化にむけた取り組みを積極的に行った。 6)歯科系診療科は、「外国人臨床修練制度」によって、今年度は 1名の外国人(ミャンマー)の教育・研修 を行い、国際的な人材の育成に貢献した。	
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
歯学部に統合		